

無意味もとい勘違い

南那珂支会代表 吉岡 陽向

「投票率が年々減少傾向にあります」そんなことは飽きるほど耳にしてきた。

多数の解決案が学生から挙げられる中、私はどれもピンときていなかった。

SNSを利用した広報も人の目に触れる機会が増えるが、目に触れたからといって詳しく調べようとは思わないだろうし、学校教育で取り上げ話し合うことで理解を深めるといふ意見も知識としては頭に入るが興味がなければ受け身の授業となんの変わりもない。

私は初め投票率が低いなら選挙を義務化すればいいのにと思っていた。

実際にいわゆる“義務投票制”を行っている国は多数あり、オーストラリアでは、正当な理由なく投票しなかった有権者に罰金を科している。その結果、50%ほどだった投票率が制度を導入してからは90%台へと変化し、以来高い投票率を維持し続けているのだ。

まあ罰金となれば投票率が上がるのはあたり前なことだが。果たしてこれで国民の政治への関心は高まったと言っていいのか。

投票率が上がるのはいいものの、こんなのただの見せかけにすぎないのでは？政治に無関心で十分な知識もない人が適当に投票するようなことがあれば全くもって無意味だ。むしろ政治内容や公約を無視した、ただの人気投票と化し、不適切な結果となることも考えられる。自分の一票くらいじゃ何も変わらないと考える人はいるが、そんな人が何千人といたら結果はどうなる？これも立派なバタフライエフェクトだ。

じゃあオンライン投票にすれば？とも考えた。投票に行かない人の理由に忙しく会場に足を運ぶ時間がないという意見多くがある。行動が不自由な人もオンラインなら参加できるし有権者数も上がるだろう。だが調べると現時点では、データ上なので本人が打ち込んでるのかわからないなどの様々な問題点があり実現には程遠いそうだ。

じゃあ結局どうすればいいのかー。

宣伝だの投票体制の改善だのするよりも、私は根本的に選挙に対する概念を変えさせることが一番先だと思う。

国民はなにか勘違いをしている。我々は「投票しなくてはいけない」ではなく「選ぶ権利をもってる」。

選挙は誰のためのものか。それは間違いなく私達一人ひとりのためのものだ。そもそも選挙とは自分たちの生活や社会を良くするため私達の意見を反映させそれを成し得る代表者を選ぶことだ。つまり投票しない人は自分の国が今後どんな方向に進んでいこうとも一切文句は言えない、まして関心もなく投票にも行かないのに批判だけするなんてもってのほかだ。

これは自論だが、選挙に関心のない人は何をしたらって興味を持つことはない。

そんな彼らも「高齢化問題により65歳になったものは無条件で逝去しなくてはならな

い」という法律案が国民の投票によって決まるとなればどうだ。まったく無関心ではいられないだろう。ようは自分に影響するかしらないかだ。つまり問題は自分の一票が自分の人生になんら影響はないという考え方そのものにある。結局、こんな考えを持つての間は、そちら側がどんな施策をしようと無意味になるだろう。

「選挙に行こう！」というポスターや投票率低下のニュースはまるで選挙は行っても行かなくてもいいという概念を植え付けてるようにはしか思えない。

皆さんは今までに「部屋に入るときは靴を脱ぎましょう！」というポスターを玄関で見たことはあるだろうか？いやないだろう。じゃあなぜ皆さんは部屋に入るとき靴を脱ぐのですか？床が汚れるから？別に脱がなかったからといって罰せられることもないのに。靴を脱ぐという習慣が定着している日本では、それはあたりまえであって何の疑問を持つことなく行ってきたものだ。

それと同じように、「義務だから」とか「呼びかけられているから」選挙に行くのではなく、当たり前前行動として投票を行う世の中を作り上げればいい。`一票の重み`だなんて言葉を使うつもりはない。投票率が上がるのがゴールじゃない。国について自分ごとのように考えてほしい。投票はあくまでそのきっかけに過ぎないのだ。

様々な施策を無意味にしないよう、最も効果的なのは能動的な意識の転換、間違った概念やその勘違いを正すところからじゃないのかと私は思う。